

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム まごのて にこにこ館	評価実施年月日	平成20年2月1日
評価実施構成員氏名	小林 本田 井上 野口 照内 木村 佐々木 榎崎		
記録者氏名	榎崎	記録年月日	平成20年2月

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>入居者様のほとんどがホームの近隣で生活していた方であり、「ゆったり笑顔でその人らしく」をベースに理念を作っている。</p>	<p>今後さらに地域の一員として生活を送れるよう支援する理念を構築していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事務所に掲示している他、居間に置いてある個人記録用ファイルの冒頭にもはさんでおり、常に見える所に置いてある。</p>	<p>スタッフ全員に浸透しているとは言えず、今後も定期的に理解を深める話し合いが必要。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には面会時やホーム便り、必要に応じて電話でご様子を伝えている。又、運営推進会議でもホームでの様子を伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や職員の出勤・退勤時にご近所の方と気軽に挨拶は出来ている。又、公園でも気軽に声をかけてくれる方がいる。</p>	<p>気軽に立ち寄ってくれるのはお隣の方のみで、さらに広げていくことが必要。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、町内会の夏祭りにも入居者様と参加している。又、近所の保育園から発表会へのご招待があり、参加している。</p>	<p>交流を持っている入居者様は限られており、気軽に立ち寄って頂けることも含め、広く交流を持ちたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で認知症についてお話をした程度である。又、近くの中学校の総合学習時、受け入れている。</p>	<p>地域住民に向けて介護教室や認知症の勉強会など検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>外部の研修への参加、社内研修などで理解を深めるよう努める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も社内外の研修で学ぶ機会を持ちたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	言える職員・言えない職員、思いを察することが出来るスタッフ・出来ないスタッフがいる。また、外部者に表せる機会や運営には反映出来ていない。		スタッフの力量の差を埋めると共に、入居者の意見や思いを全スタッフが共有できるよう努める。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時にはその都度ご報告する他、月1回家族便りでもご様子を写真と共に伝えている。さらに必要に応じて電話でも伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て箱を設置しているが活用されていない。ご様子を伝える際にご意見等ないか伺っている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス時や日常の中で上がってきた意見は聞いているが、言えていない部分もあると思われる。管理者がスタッフから聞いた意見等については必ず経営者に伝えている。		個人面談等スタッフの考えを聞く機会を持ちたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は通常のシフトに入れていないため、入居者様の状態の変化に応じて対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設から丸2年くらいスタッフの入れ替わりがなかった為、新しいスタッフが来たときは、今までのスタッフが早くなじめるようフォローしていた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社外研修の機会は設けているが、全スタッフが参加できる体制になっていない。</p>	<p>全スタッフが参加していけるよう講演会など幅広く情報を集めたい。又、研修後の発表の場も確保していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は研修会の他、管理者会議等交流する機会が持てているが、他のスタッフは社外研修でしか交流する機会がない。又、法人内で一度合同で救急救命の講習会を行ったが交流できたとは言えない。</p>	<p>まずは法人内で交流が出来るものがないか検討したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレス解消は個人に任せている状況になっている。</p>	<p>個人面談で話を聞く機会を持つよう努める。又、勤務時間中に気分転換を図れる工夫も検討したい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>経営者は平日1日1回は顔を出している。又、資格取得に向けて、学習費や受験費用を負担したりと支援の体制が出来ている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に必ずご本人と会い、心身の状態の把握に努めているが、不安等については入居して慣れてくるまで把握できないことが多い。</p>	<p>事前の情報収集に努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の相談は、ご本人の思いとは分けて聞きよう努めている。</p>	<p>入居を考えるまでに至った経過などをもっとゆっくり聞き、その後につなげられるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずはお話を聞き何が必要かを検討し支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ずご本人又はご家族に見学に来て頂き、ホームの様子を観て頂いている。ご本人が見学これない時は必ずこちらから出向き、事前にお会いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方通行ではなく、お互いが楽しめるよう接している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	笑顔で挨拶をし、ホームでのご様子を話しているが、ケアスタッフの中には喜怒哀楽を共にする機会がないと感じている者もいる。(報告が管理者や計画作成者が中心の為)		日常のご様子についてはケアスタッフにも聞いてもらうよう体制を作っていくよう努める。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の不満を話している時はフォローし、嬉しいことは積極的に伝えている。又、面会時は自室でゆっくり過ごしてもらい、必要に応じて間に入っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人の面会時もゆっくり過ごしてもらえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一方の入居様が世話をしあげるといった気持ちを持たないよう、スタッフが間に入りさりげなくフォローしている。一人ひとりとゆっくり話を聞く機会も持っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了時に「何かあればいつでもご相談下さい」と話してはいるものの、現状は必要時のみしか連絡を取っておらず、継続的な関わりはもてていない。		サービス終了後も関係が持てるよう努める。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	訪室したり、散歩に誘うなどしてゆっくり話を聞く機会を持っている。又、言葉通り受け取るのではなく、裏側も探よう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の一部を利用し、ご家族の協力や入居者様との普段の会話の中から把握するよう努めている。		今後も日々のアセスメントに力を入れていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中やご家族のお話から把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族・ご本人から要望を聞き、計画作成者を中心に、カンファレンスで話し合いを作成している。		さらにご本人、ご家族の要望を反映させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に評価・見直しを行う他、状態の変化や状況に応じて作成を直すよう努めているが、現状に即したものが出来ていない。		現在ケアプランの作成は計画作成者が行っているが、それをケアスタッフに落とし、プランを身近なものにして、こまめに見直しができるようにしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に記録する他、ちょっとしたことをメモできる用紙を用意しており、日常の些細なことや生活歴の一部などが記録できている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて病院への送迎等支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防の協力で救命救急の講習会を行っている。又、運営推進会議で行事の報告をした際、車椅子が必要な時は貸し出すことができますと、町内会よりお話しを頂く。		外出行事の際ボランティアの方の協力を検討している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人やご家族の希望で訪問美容や福祉用具事業者の協力を得ている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂いている。		今後入居者様の権利擁護について相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回のかかりつけ医の往診と週1回看護師の健康チェックがあり、どちらも必要に応じて相談にもものっていただいている。又、ご本人・ご家族の希望があれば入居後も在宅時と同じかかりつけ医に診てもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医より必要に応じて専門医を紹介してもらい受診している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回看護師の健康チェックがあり、スタッフだけでなく、入居者様のご相談も聞いてもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	直接病院に行ったり、電話でソーシャルワーカーや病棟の担当看護師からこまめに状態を聞き、確認している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	平成19年12月にご家族やかかりつけ医にまごのてでの重度化した場合の指針について説明をしている。その際、今後も必要に応じて相談をしていく事も伝えている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在まで終末期の対応は行っていない。又、入居時の他、状態の変化などで医療の必要が高くなる可能性がある場合は事前に「ホームでは常時医療行為は出来ないこと」をご家族に話している。		重度化した時に向けてかかりつけ医と連携を強化する他、ケアスタッフのスキルアップも図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移る時は、こちらの情報を提供すると共に、先方の事前調査等に協力するなど、情報交換に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居様が年上であるという意識を持ち、意識して対応しているが、気づかないうちに損ねているかもしれない不安はある。又、個人情報の取り扱いには注意するよう常々話している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>「どうする」「どっちがいい」などと意見を求めながら支援することを心がけている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居様に合わせて行動する様に努めているが、入浴時間などこちらの都合に合わせてしまうこともある。</p>		<p>ご本人の希望を優先すると自室にこもりきりになってしまう方もいる。ペースを考えつつも声かけ等も工夫していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>一緒に選んだり、ご本人の希望を聞きながら支援している。又、ご本人の希望する美容室に行ったり、スタッフが切るときも必ずどういう感じが良いかきいている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>出来るだけ声かけをし、一緒にやってもらうようにしている。</p>		<p>出来る方が沢山いる為、皆にやってもらう環境が出来ておらず、台所に立つ方が決まってしまう。皆が出来るよう工夫して行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を好む方には出している。現在喫煙者はいないが、居間で吸うことは可能である。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おおまかなパターンしか把握出来ておらず、もっと理解出来ればスムーズに排泄が出来ると思われる。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	「入ろうかな」と思える声かけやタイミングを考えて対応している。拒否があれば無理には入浴しておりません。入浴時間も希望があれば午前も行っている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間睡眠がうまく取れない方の対応の難しさはあるも、不安や困った表情、態度に添えるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	気晴らしに散歩に誘ったり、場所を変えて話したり、役割、楽しみごとを持ってもらうよう支援しているが、不十分である。		特に自室で過ごすことが多い方に対して、張りや楽しみを持って生活できるような支援を考えていく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望があれば持ってもらっており、買い物の際も支払いをしてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買出しに行っている。又、歩行が不安定な方や歩くのは面倒という方はドライブに誘っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ほとんどはご家族の対応で出かけている。一度バスや地下鉄を使った外出の機会を作った。		日々の関わりの中で行きたいところを見つけたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を自室に設置している方はいつでも自由に使っている。希望があればホームの電話を使う事も可能である。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者には笑顔で対応している。一方的に話さず聞くことも心がけている。又、ゆっくり居室で過ごしてもらっても、時にはご家族と写真を一緒に見てその時のことを話すこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンスにて身体拘束について確認している。		身体拘束はないが、今後も身体拘束や権利擁護について学ぶ機会を持ちたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外の施錠は行っていない。又、外に行こうとする方に対してはその都度対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜を問わず入居者様の様子は把握するよう努めている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者様の状態に応じてハサミや果物ナイフを持っている方がいる。又、ホームの洗剤や刃物はそれぞれまとめて保管している。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>急変時の対応の勉強会をしたり、救命救急の講習を受けている。又、カンファレンス時に入居者様ごとに事故の危険についても話し合っている。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時の対応の勉強会をしたり、救命救急の講習を受けている。</p>		<p>定期的に勉強会や講習会への参加を続けていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>1度消防の方に来てもらい避難訓練を行なったのみで、定期的に出ていない。</p>		<p>運営推進会議で避難訓練について報告した所、地域の消防団を紹介してくれるとのことであった。今後は消防団と連携した避難訓練を行ないたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>カンファレンス等で話し合い、面会時や家族便りでご家族に説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>バイタルサインだけでなく、表情や言葉の調子などにも気をつけ、変化があれば報告する体制が出来ている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人用ファイルに「お薬情報」を挟んでいる。スタッフによっては自分でも調べたりしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防の為に水分補給や食事の工夫は出来ているが、運動の働きかけが足りない。</p>	<p>入居者様自ら体を動かしたいと思える働きかけを考えていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>出来ている方、出来ていない方がいる。</p>	<p>自立している方への働きかけを工夫していく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量のチェックを行なっている。又、必要に応じて水分もチェックしている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関するマニュアルを作成している。又、市からの情報を随時スタッフにも伝え、必要に応じてインターネットでも情報を集めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>布巾や調理器具の消毒などを取り決めに沿って行なっている。又、週1回在庫チェック時に数だけでなく、食品の状態もチェックし、処分している。月1回は冷蔵庫・冷凍庫の掃除をおこなっている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関や玄関周りにお花を植えている。又、玄関付近と駐車場横にベンチやイス・テーブルを置きひと休みできるようにしている。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾る他、春・夏は外出先で採ってきた花や拾った葉を飾り季節感を出している。ご家族がお花を持ってきてくれることもある。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間にソファ、廊下に籐の椅子を置いている。廊下の椅子は一息ついたり、気分転換に使用されている。</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前にご家族に新しい物より、使い慣れた物が良いことを伝えており、使い慣れたものを持ち込んでもらっている。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>居室や居間の温度をこまめに調整したり、湿度・換気にも気をつけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・階段・浴室等に手すりを設置している。入居者様の状態に合わせて、危険な箇所はないか話し合っている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室に目印をつけている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の裏に畑があり、花や野菜を植え、一緒に水やり、収穫を楽しんでいる。又、駐車場に椅子とテーブルを設置したことでそこでもお茶や夕涼みをしながらのお酒を楽しめている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

住宅街の奥まった所にあり、理念の「ゆったり」を実践できる静かな環境で生活ができています。又、ホームの玄関周囲にプランターを設置し、さらに裏には畑があり、花や野菜を植えています。眼で楽しむ他、春先に何を植えるか考え、一緒に水やりや収穫をし、調理も楽しんでいます。

にここ館は、開設以来スタッフの入れ替わりがなく、入居者様も安心して生活出来ていたと思います。3年目で初めて入れ代わりがありました。新旧のスタッフが重なる部分も作れ、残っているスタッフのフォローもあり、入居者様へのダメージが少なく済んだと思っております。

昨年は保育園との交流や、近くの中学校の総合学習の生徒の受け入れが出来ました。今後は避難訓練を地域の方たちと一緒に行うなど、さらに連携を強めていきたいと考えております。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム まごのて ほのぼの館	評価実施年月日	平成20年2月1日
評価実施構成員氏名	小林 平野 阿部 中村 三木 原 小野寺 榎崎		
記録者氏名	榎崎	記録年月日	平成20年2月

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>入居者様のほとんどがホームの近隣で生活していた方であり、「ゆったり笑顔でその人らしく」をベースに理念を作っている。</p>	<p>今後さらに地域の一員として生活を送れるよう支援する理念を構築していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事務所に掲示している他、居間に置いてある個人記録用ファイルの冒頭にもはさんでおり、常に見える所に置いてある。</p>	<p>スタッフ全員に浸透しているとは言えず、今後も定期的に理解を深める話し合いが必要。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には面会時やホーム便り、必要に応じて電話でご様子を伝えている。又、運営推進会議でもホームでの様子を伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や職員の出勤・退勤時にご近所の方と気軽に挨拶は出来ている。又、公園でも気軽に声をかけてくれる方がいる。</p>	<p>気軽に立ち寄ってくれるのはお隣の方のみで、さらに広げていくことが必要。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、町内会の夏祭りにも入居者様と参加している。又、近所の保育園から発表会へのご招待があり、参加している。</p>	<p>交流を持てている入居者様は限られており、気軽に立ち寄って頂けることも含め、広く交流を持ちたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で認知症についてお話をした程度である。又、近くの中学校の総合学習時、受け入れている。</p>	<p>地域住民に向けて介護教室や認知症の勉強会など検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>外部の研修への参加、社内研修などで理解を深めるよう努める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も社内外の研修で学ぶ機会を持ちたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	言える職員・言えない職員、思いを察することが出来るスタッフ・出来ないスタッフがいる。また、外部者に表せる機会や運営には反映出来ていない。		スタッフの力量の差を埋めると共に、入居者の意見や思いを全スタッフが共有できるよう努める。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時にはその都度ご報告する他、月1回家族便りでもご様子を写真と共に伝えている。さらに必要に応じて電話でも伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て箱を設置しているが活用されていない。ご様子を伝える際にご意見等ないか伺っている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス時や日常の中で上がってきた意見は聞いているが、言えていない部分もあると思われる。管理者がスタッフから聞いた意見等については必ず経営者に伝えている。		個人面談等スタッフの考えを聞く機会を持ちたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は通常のシフトに入れていないため、入居者様の状態の変化に応じて対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しいスタッフがきた際、今までのスタッフが早くなじめるようフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社外研修の機会は設けているが、全スタッフが参加できる体制になっていない。</p>	<p>全スタッフが参加していけるよう講演会など幅広く情報を集めたい。又、研修後の発表の場も確保していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は研修会の他、管理者会議等交流する機会が持てているが、他のスタッフは社外研修でしか交流する機会がない。又、法人内で一度合同で救命救急の講習会を行ったが交流できたとは言えない。</p>	<p>まずは法人内で交流が出来るものがないか検討したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレス解消は個人に任せている状況になっている。</p>	<p>個人面談で話を聞く機会を持つよう努める。又、勤務時間中に気分転換を図れる工夫も検討したい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>経営者は平日1日1回は顔を出している。又、資格取得に向けて、学習費や受験費用を負担したりと支援の体制が出来ている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に必ずご本人と会い、心身の状態の把握に努めているが、不安等については入居して慣れてくるまで把握できないことが多い。</p>	<p>事前の情報収集に努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の相談は、ご本人の思いとは分けて聞きよう努めている。</p>	<p>入居を考えるまでに至った経過などをもっとゆっくり聞き、その後につなげられるよう努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずはお話を聞き何が必要かを検討し支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ずご本人又はご家族に見学に来て頂き、ホームの様子を観て頂いている。ご本人が見学にこれない時は必ずこちらから出向き、事前にお会いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事のことなど質問や問いかけをしたり、常に相手の気持ちを考え受容、共感できるよう努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々のご様子を報告し、ご自宅や昔の暮らしぶりを聞いている。しかし、報告等は管理者や計画作成者が中心の為、ご家族とのコミュニケーションが足りないと感じているケアスタッフがいる。		日常のご様子についてはケアスタッフにも聞いてもらうよう体制を作っていくよう努める。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時はご本人とご家族で過ごしてもらい、必要に応じてスタッフが間に入っている。又、遠方のご家族から母の日等の贈り物があった時は、ご本人が御礼のお手紙やはがきを書くよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している美容室に通っている。又、知人・友人の面会時もご家族同様ゆっくり過ごしてもら得るよう努めている。		知人・友人の方にも認知症を理解してもらうよう取り組み、長くお付き合いが出来るよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その時々で、入居者様同士にして様子を観たり、スタッフが間に入り歓談やレクを行っている。又、時には個別にゆっくり話を聞く機会も持つよう努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了時に「何かあればいつでもご相談下さい」と話してはいるものの、現状は必要時のみしか連絡を取っておらず、継続的な関わりはもてていない。		サービス終了後も関係が持てるよう努める。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	特に入浴や夜間に普段の思いを話してくれる方が多く、それをきっかけに希望、意向などの把握に努めている。		直接思いを伝えられない方の希望や意向の把握が出来ておらず、今後努めていきたい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の一部を利用し、ご家族の協力や入居者様との普段の会話の中から把握するよう努めている。		今後も日々のアセスメントに力を入れていく。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中やご家族のお話から把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族・ご本人から要望を聞き、計画作成者を中心に、カンファレンスで話し合い作成をしている。		さらにご本人、ご家族の要望を反映させていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に評価・見直しを行う他、状態の変化や状況に応じて作成を直すよう努めているが、現状に即したものが出来ていない。		現在ケアプランの作成は計画作成者が行っているが、それをケアスタッフに落とし、プランを身近なものにして、こまめに見直しができるようにしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に日々の様子を記録するほか、ちょっとした気づきをメモできる用紙を用意しているが、なかなか情報は共有できていない。		スタッフ全員が同じ情報を共有できるよう検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて病院への送迎等支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防の協力で救命救急の講習会を行っている。又、運営推進会議で行事の報告をした際、車椅子が必要な時は貸し出しできますと、町内会よりお話しを頂く。		外出行事の際ボランティアの方の協力を検討している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人やご家族の希望で訪問美容や福祉用具事業者の協力を得ている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂いている。		今後入居者様の権利擁護について相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回のかかりつけ医の往診と週1回看護師の健康チェックがあり、どちらも必要に応じて相談にもものっていただいている。又、ご本人・ご家族の希望があれば入居後も在宅時と同じかかりつけ医に診てもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医より必要に応じて専門医を紹介してもらい受診している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回看護師の健康チェックがあり、スタッフだけでなく、入居者様のご相談も聞いてもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	直接病院に行ったり、電話でソーシャルワーカーや病棟の担当看護師からこまめに状態を聞き、確認している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	平成19年12月にご家族やかかりつけ医にまごのてでの重度化した場合の指針について説明をしている。その際、今後も必要に応じて相談をしていく事も伝えている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在まで終末期の対応は行っていない。又、入居時の他、状態の変化などで医療の必要が高くなる可能性がある場合は事前に「ホームでは常時医療行為は出来ないこと」をご家族に話している。		重度化した時に向けてかかりつけ医と連携を強化する他、ケアスタッフのスキルアップも図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移る時は、こちらの情報を提供すると共に、先方の事前調査等に協力するなど、情報交換に努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>気を付けて対応している。他者に聞かれたくないことなど内容によっては場所を変え、対応している。又、折に触れて情報の取り扱いには注意を促している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人がどうしたいかを問いかけて支援している。</p>		<p>まだまだ意思表示に気づけていなかったり、ご本人の思いを引き出せていない部分もあり、少しでもご本人が選びやすい状況を作れるよう支援していきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>トイレに関してはその人のペースで支援するよう努力している。</p>		<p>時には業務や決め事が優先されることもあり、入居者様に「ちょっと待って」と言わない支援をしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その日に着る衣類はなるべくご本人に選んでもらうよう努めている。又、入居者様によって訪問美容を利用したり、入居前から通っている美容室を利用している。髪形もご本人やご家族にどのような感じにするか聞いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>畑で採れた野菜を見せたり、その日のメニューについて話している。又、日頃からどのような物が好きか、嫌いかなどに注意している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ライターは預かっているがタバコの吸いたい方には居間で吸ってもらっている。又、おやつは好みを聞き作ったり、買ったりしている。(現在お酒を飲まれる方はいないがかりつけ医の禁止がない限りはホームでは禁止していない)		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄のリズムやトイレに行きたいサインに注意し誘導やオムツ交換をしている。		以前は皆の前で「トイレは？」といった声かけが聞かれていたが、スタッフ一人ひとりが声かけにも気をつけている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の間隔やその方に合ったタイミングで声をかけるよう努めている。拒否があれば無理には入浴をしてもらはないが、拒否が続く時はどうしたら入るかを話し合っている。		時間帯は決まっているので、夕方に入りたい方の希望には添えていない。又、入浴の順番をスタッフの都合で決めてしまうこともある。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の希望や状態に合わせて休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人の好きな歌を歌ったり、テレビを見たりと日常の支援に取り入れているが、業務が優先されたり、手を出しすぎる場面もある。		自室中心に過ごされる方も多く、今一度アセスメントをし張りのある生活に向け支援したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人、ご家族の希望があれば持ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	夏季は体調に合わせて散歩にちよくちよく誘っている。冬期間はドライブなどに誘うもなかなか行く方がいない。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の対応で出かけられた方はいるも、ホームで個別の外出には対応出来ていない。		日々の会話などで思いや行きたいところを探っていききたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話を自室に設置している方はいつでも自由に使用しており、希望があればホームの電話を使う事も可能である。又、手紙を書ける方には、年賀状やお礼のお手紙を書けるよう手伝っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔での対応を心がけ、訪問者には、居室でゆっくり過ごしてもらえるようこころがけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンス等で身体拘束について確認している。つい最近までベット柵で身体拘束を行っていた方がいるが改善に向けて話し合い、現在は解決に至っている。		今後も安易に身体拘束をしないよう、権利擁護も含め勉強していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外の施錠は行っていない。又、外に行こうとする方に対してはその都度対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録は居間で書いており、スタッフが居間から移動する時は声を掛け合っている。夜間はスタッフがそれぞれ見守りやすい位置におり、定時の他、入居者様に合わせて巡回をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤類や刃物はまとめて保管している。入居者様の状態によってはあるがハサミを自分で持っている方もいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	急変時の対応の勉強会をしたり、救命救急の講習を受けている。又、カンファレンス時に入居者様ごとに事故の危険についても話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応の勉強会をしたり、救命救急の講習を受けている。		定期的に勉強会や講習会への参加を続けていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	1度消防の方に来てもらい避難訓練を行なったのみで、定期的に出ていない。		運営推進会議で避難訓練について報告した所、地域の消防団を紹介してくれるとのことであった。今後は消防団と連携した避難訓練を行ないたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	カンファレンス等で話合っており、日頃の様子と合わせご家族に説明している。		日頃からご様子を知ってもらう機会を積極的に作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>普段と様子が違ってないか観察し、その都度他のスタッフに伝え、相談している。特に夜間は気をつけている。</p>	<p>小さな変化も共有できるような体制を作っていきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人記録用ファイルに「お薬情報」も挟んでいるが、理解度についてはスタッフにより差がある。血圧の変化に注意したり、安定剤や下剤の使用時は特に注意している。</p>	<p>理解度の差を埋めるよう努めていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>水分の摂取量や腹部の張りなどに注意している。又、排便の状況を見ながら乳酸飲料も勧めている。</p>	<p>運動量が少なく、体を動かさず働きかけをしていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて声かけ、介助を行なっている。又基本は就寝時に義歯を洗浄剤につけているが、その方の状態に合わせて日中に預かっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量のチェックを行なっている。食事量の足りない方はおやつや高カロリー食品を使い補っている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関するマニュアルを作成している。又、市からの情報を随時スタッフにも伝え、必要に応じてインターネットでも情報を集めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>布巾や調理器具の消毒などを取り決めに沿って行なっている。又、週1回在庫チェック時に数だけでなく、食品の状態もチェックし、処分している。月1回は冷蔵庫・冷凍庫の掃除をおこなっている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関や玄関周りにお花を植えている。又、玄関付近と駐車場横にベンチやイス・テーブルを置きひと休みできるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間には季節の花や観葉植物を置いている。居間のテレビの音には十分気をつけている。又、スタッフは食器の音にも注意するよう心がけている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間にはソファを、廊下には籐の椅子を置いており、そこで新聞を読んだり、お茶を飲まれて過ごしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前にご家族に新しい物より、使い慣れた物が良いことを伝えており、使い慣れたものを持ち込んでもらっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気や湿度の調整に気をつけている。又、においに対しては換気のほか、適宜置き型消臭剤や消臭スプレー等を使ってにおいがこもらないようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>トイレ、洗面所使用時は、その都度声をかける他、混乱を少なくする為の対策を話し合っていく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>建物の裏に畑があり、花や野菜を植え、一緒に収穫を楽しんでいる。又、駐車場に椅子とテーブルを設置したことでそこでもお茶を楽しめている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

住宅街の奥まった所にあり、理念の「ゆったり」を実践できる静かな環境で生活ができています。又、ホームの玄関周囲にプランターを設置し、さらに裏には畑があり、花や野菜を植えています。眼で楽しむ他、春先に何を植えるか考え、一緒に収穫をし、調理も楽しんでいます。

ほのぼの館は、車椅子使用者が多く、介護度も重いですが、テレビやビデオを見るだけでなく、歌体操で体を動かしたり、ことわざクイズで頭を使ったりと、スタッフがレクを工夫しています。

去年は保育園との交流や、近くの中学校の総合学習の生徒の受け入れが出来ました。今後は避難訓練を地域の方たちと一緒に行うなど、さらに連携を強めていきたいと考えております。